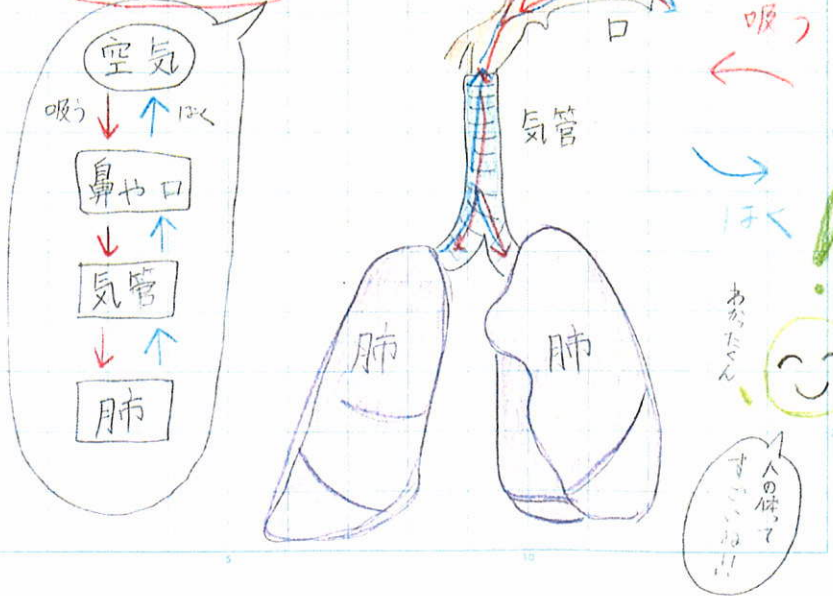


6/11 (理科の復習)

① 体の中の肺で酸素をとり入れて二酸化炭素を出している。吸った空気の中の酸素は、肺の血管を流れる血液中にとり入れられる。また、血液中の二酸化炭素は、はく空気の中へ出される。

このように、酸素を体にとり入れて二酸化炭素を出すことを

呼吸(きゅう)という。(四)



(肺の中のつくり)

・気管は枝分かれしてだんだん細くなり、その先はとて小さいなふくろになっっている。この小さなふくろを肺胞(かふ)という。肺は、肺胞がたくさん集まってできていて、この肺胞を細い血管がとりまわっている。そして、肺胞でとり入れた空気中の酸素は血液に入り、血液で運ばれてきた二酸化炭素とこうかきかされる。肺胞の1つの大きさは、とて小さいですが、すべての肺胞をなげると大きな面積になる。ふくろの形になっっていることで、空気と小する面積が大きくなり、酸素と二酸化炭素のこうかきか率をよく行っている。

